

はじめに

～この冊子を手にとったみなさまへ～

いたるところで行われているお祭り、災害に備えた防災訓練、高齢者等の見守り、ラジオ体操等をはじめとした健康づくりなどのさまざまな取組は、地域住民を中心に、まちをより良くしたい！という想いが形となったかけがえのないものです。鶴見区では、「子どもも大人も、障害のある人も誰もが安心して健やかに暮らせるまちづくり」が行われるよう、すべての地域福祉保健活動を「鶴見・あいねっと」と呼び、計画を進めてきました。

令和元年度末から新型コロナウイルス感染症が猛威をふるい、感染拡大期にあっては誰もが「新しい生活様式」を求められ、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼしました。これまでの方法では、続けることが難しくなった地域活動もあります。それでも、危機に直面し、どうすれば大切な居場所を守れるのかそれぞれの場で話し合い、方向性を見い出せたのは大きな成果といえます。

第4期計画では、「人材」「相互理解」「場・機会」の3点を、すべての地域活動に共通する要素とし、“推進の土台”と新たに名づけます。地域の身近な活動に参加する人が1人でも増え、住む人同士がお互いを理解・尊重でき、居場所や交流の機会がさらに充実するよう、“自分で、地域で始められること”を具体的に盛り込みました。 ⇒19 ページ、27 ページ、35 ページへ

未来の鶴見区は、団塊世代が後期高齢者(75歳)に達する2025年問題や、人口減少により1.5人の現役世代で1人の高齢世代を支える2040年問題など、これまで以上に福祉のまちづくりの重要性が高まっています。

これからも、区民のみなさまを始め行政、関係団体・機関など鶴見にかかわるみんなで、鶴見・あいねっとの基本理念「たすけあい・支えあい・人と人のネットワーク」を実現していきましょう！

